

2014 年度事業報告

(2014 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

法人名称 NPO 法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー

1. 事業成果

2014 年の Ed.ベンチャーの活動を振り返るには、めがねの右と左のレンズのように、次の二つの視点をとおして総括したい。片方のレンズは、総会で採択された「行動宣言」が活動の中で生かされていったか。もう片方は「その後の世の中の動向」である。

行動宣言では、ますます進行する格差の拡大と、東日本大震災以後より明確になった都市への富の集中のなかで、Ed.ベンチャーの弱々しい活動であっても、それを頼りにする人が目の前にいる以上、それほどにひどくなった状況に抗する意味でも、私たちは弱い立場の子どもたちへの教育に関わる支援を続ける意味を再確認し、宣言した。

また、世の中の動向では、更なる経済格差が子どもたちに襲い掛かっているといえる。アベノミクスと自称される（自嘲ではない）経済政策も、企業や富裕層、投資家たちの懐を潤すのみで、「やがておこぼれがあるから待っている」と言われても、いつまでたっても「お恵み」は回ってこない。地方も、女性も、非正規労働者も、高齢者も、下請け企業も、一切合財取り残されているように思える。「円安倒産」のことも珍しくなくなった。こうした状況下で、全国学力・学習状況調査では、「文化資本」が子どもたちの学力を決定付けしている実態が、マスコミでも取り上げられ始めた。子どもたちの間に生まれている格差を、いかなる方法を持ってすれば埋められるのかは、まったくわからないでいる。

さて、こうした中で、2014 年の活動を振り返ってみると、残念ながら、私たち Ed.ベンチャーにとっては、もがきつつも停滞した年であったと、全体的には括れるかもしれない。いままでの活動を何とか継続、維持することが目的化してしまった場面が多かった、といわざるを得ない。そうなってしまったと判断する根拠は「広がりの可能性」である。活動が停滞していないときは、活動の中で、さまざまな広がりを感じつつ取り組みは進められる。時には、取り組みが広がることに、不安さえ感じることもあるはずだ。しかし、どうだろうか。子どもたちにつながる可能性として、その広がりを感じ取ることができたかは疑問である。

子どもたちが置かれた現状を受け取りつつ、再度「設立趣旨」や「宣言」にもどって、各セクションの活動の意味を問い直さなければならないと考える。

ただ、こうした現状の中でも、成果をあげることができた活動もあったのも事実であり、「お父さんとお母さんのための日本語教室」や「小学 5・6 年教室」などでは、対象者のニーズを探りながらの展開ができた。

閉塞的な状況は突然襲ってくるわけではない。灯りがひとつずつ消え、すべてが消えるときに闇がやってくる。小さな灯りを、たくさん灯すしかない時代のなかの Ed.ベンチャーなのだ。

2. 事業内容

学校支援事業 ①理論学習会

事業概要	<p>学校で起こっている問題や、学校を取り巻く社会、これから子どもたちが進んでいく社会の状況など、学校に関わって考えておく必要があるテーマを取り上げて、月1回の学習会を行った。今年度は「平準化」「タブー」をキーワードに、学習を進めた。毎年行っている「いじめ」に関する学習は、今年度はいじめ防止対策推進法に関連して行った。</p> <p>1月 講演会「マイノリティーの社会資本作り」 講師：金宣吉氏（神戸定住外国人支援センター）</p> <p>4月 講演会「いじめの構造」 講師：清水睦美氏（日本女子大学）</p> <p>5月 事例研究「排除しない学級経営」 提案者：馬場有希氏（大和市立上和田小学校） 平井貴宏氏（座間市立相模中学校）</p> <p>6月 講演会「大和の教育」</p> <p>7月 講演会「私たちはなぜ日本にいるのか」 講師：チュープサラーン氏（すたんどばいみー）</p> <p>8月 映画上映会「SAYAMA～見えない手錠をはずすまで～」</p> <p>9月 実践報告「話し合いの先にある育てたい力」</p> <p>10月 講読会①「つながり格差が学力格差を生む（著：志水宏吉）」</p> <p>11月 講読会②「同上」</p> <p>12月 講読会③「同上」</p>
担当者	池田喬 村本綾 吉間里依（のべ従業員数 30名）
開催日 （時間）	1/27、4/30、5/12、6/2、7/7、8/25、9/22、10/20、11/10、12/8 （時間 19：15～21：00）
場所	富士見文化会館
対象者数	教師、教職希望の学生を中心に、広く一般市民（のべ参加者数 117名）
収入金額	108,000円（参加費）
支出金額	60,918円（会場費、賃借料）
成果 と課題	<p>1月の学習会では講師を招き、社会情勢の中に見られる問題について、マイノリティーの視点から話を聞くことができた。4月は「いじめ」を事件化して捉える社会情勢の動きに対して、教育問題として向き合うことを再確認する場となった。事例研究では、ともすればクラスの中からはじき出されそうな子どもを、つなぎとめる2名の先生の実践を聞いた。排除しないという信念に基づいた実践は、日頃の学級運営を振り返る学習会となった。6月の学習会では講師を招き、学校現場で起こっている問題や児童生徒の置かれている状況などを学習し確認することができた。特に大和市の教育に視点をあてた学習会では、</p>

	<p>現状により必要とされている教育とは何か、今の教育に必要な知識について考えさせられる学習会となった。7月の学習会では、私たちが拠点とする大和市の学校にいる外国人の児童生徒がなぜ日本にいるのか、本人や親が日本に来ることになった背景を知ることで、その背景をふまえた外国人の児童生徒との関わり方を考えさせられる機会となった。8月の学習会では、理論学習会としては初めて映画の上映会を行なった。「狭山事件」題材にしたドキュメンタリー映画を通して当事者自身から伝えられる差別の実態を知ることができた。また上映後は、私たちの周りにもある「差別」について参加者で話し合いをし、身近にある「差別」について考えさせられる学習会となった。9月は毎年行なっている実践報告から、報告者が日常の授業中で児童生徒にむけた「育てたい力」をつけようとする意図的な取り組みが紹介された。10～12月では講読会を行なった。5名の発表者とともに著者が伝えたいことを参加者で共有し、大和市内の学校現場での実態をとらえたいと11、12月の学習会へとつなげた。市内のいくつかの学校を参考に、学校現場の状況から、家庭環境・地域とのつながりなどの社会関係資本と学力の関係性を確認するとともに、全国学力テストの結果から展開される学力向上を促す政策、学校現場での問題などについても考えさせられる学習会となった。</p> <p>運営面では、各学習会の内容を参加者でより深めるような議論の進め方の準備に欠け、学習会をまわすことで精一杯になっている状況があった。Edベンチャーが積み上げてきたものと講師に話してもらいたい内容とを整理した上で、学習会の柱を設定することが課題である。来年度は、スタッフ増に伴い、より多くの意見を持ちより、1つの学習会に対する事前準備に時間をかけて準備を進めたい。</p> <p>現実的な課題として、月曜日はほとんどの学校で放課後、学年会議が行われており、その後に先生方は自分の仕事を行っている。学習会へ、より多くの人に来てもらうことを考えた場合、開催曜日の変更も検討する必要がある。</p>
--	--

学校支援事業 ②授業研究会〈小5・6教室〉

事業概要	<p>小5・6教室では、外国にルーツをもつ小学校高学年の児童に、授業を行う。地域に暮らす外国人の子ども達同士、そこにかかわる人とのつながりを大切にする授業を組み立てていこうと考えた。授業は、集団を対象とし、教科の枠にとらわれず、来ている児童の実態に沿ってつくってきた。具体的には、生活の中で感じていることを詩にのせる、意見を出し合って話し合いによって遠足の内容を決める、家庭状況によって周辺化しがちな女の子たち中心に料理を企画するなど。日本で生活する外国人の子どもが必要とする力は何なのかを探りながら活動を展開した。</p>
担当者名	下新原なつみ 馬場有希 前田拓郎 清水美希
開催日	1/10、1/24、2/1、2/22、3/7、3/15、3/21、5/10、5/24、6/14、6/28、7/12、7/26、

(時間)	8/23、9/6、9/20、10/11、10/18、11/1、11/22、12/6、12/20 (第一・第三土曜日 12:30~14:00)
場所	大和市立渋谷中学校開放「下和田の郷」
対象者数	53名(スタッフ数45名) 延べ98名
収入金額	29,320円(参加者負担金)
支出金額	52,495円(旅費交通費、消耗品費、印刷製本費、会場費、保険料)
成果と課題	<p>大和市側のいちょう団地の子どもに加え、横浜市側の子どもが、すたんどばいみーの呼びかけを機に参加するようになった。人数が増えた分、子ども達から見えてくる課題も、母国の名前から日本名に変えることや、特別支援級に在籍する外国人、家の事情に縛られる外国人の女の子の大変さなど、様々であった。他の人の状況を知る機会のないかれらが継続して教室に参加することで、友達の状態を知り、互いに影響し合っって関係を築き始めた様子がみられた。</p> <p>一方、教員の立場からは、外国につながるのある子どもとの関わりを通して新たな気づきがあった。まず、普段学校で「集団をうごかす」のとは違う、個へのアプローチの視点を深めるということ。そして、文化の違いや言葉の壁による親子間でのずれ、立ち位置の不安定さからくるかれらの生きづらさにじっくり向き合うということであった。ただ、それらが個別に抱える課題なのか、文化的背景による全体に共通する課題なのかを把握するだけの知識がないので、正確に状況をとらえるためにも、かれらの母国についての歴史や来日理由、家庭状況などを知る必要があると感じている。</p> <p>当事者団体すたんどばいみーには、外国にルーツをもつ子ども達に関わる教師の力量形成のために、教室に参加する子どもについての情報提供をしてもらった。</p>

学校支援事業 ③教育講演会

事業概要	<p>あの「原発事故」が意味するものは、開発型の現代文明のほころびであった。「現代文明」の先に、私たちはどのような未来を想起し、子どもたちにどのような社会を語ればよいのだろうか。「専門家」がすべてを握る時代の終わりを講師 内山節先生は語る。群馬県上野村という山間の地域で、自然と人、人と人の共存関係を大切にしながらも展開されていく、さまざまな「地域づくり」の取り組み。それらは、聞き手の中にしみついている現代社会(現代文明)の価値観を根底から崩すものであった。ソーシャルビジネスを経営活動の一翼に位置づけながら語る社会像は、新鮮さを持って私たちに迫ってきた。</p> <p>講演会 「語るべき未来」を探るー原発事故が意味するものと「里」の思想 講師 立教大学教授 内山 節 教授</p>
担当者名	洲崎仁美・池田喬

開催日 (時間)	①教育講演会 2月25日(土) 13:00～ ②事前読書会 1月14日(火) 19:00～ ③講師との懇親会 2月25日(土) 17:30～
場所	①③渋谷学習センター 多目的ホール ②富士見文化会館
対象者	38名(事前参加者数20名)のべ58名
収入金額	56,000円(参加費)
支出金額	81,035円(旅費交通費、消耗品費、交流費、印刷製本費、会場費、諸謝金他)
成果 と課題	前日の大雪のため開催が危ぶまれたが、講師は会場に駆けつけてくださった。雪のせいで参加者は少なかったが、手ごたえのある講演会となった。講演のあとでの討論会でも、若い世代の参加者や、学生からの質問や意見があり、講師の提示する内容が、若者たちの将来像に刺激を与えたことがよくわかった。 上野村をやがては訪れたいとの、すたんどばいみーからのことばもあった。 今回講師によって提示された問題を、具体的にどう受け止めていくのかは、なかなか難しい問題である。

学校支援事業 ④学校相談・教師相談

事業概要	学校や教師からの相談内容について、相談ごとグループ編成し支援を行った。		
担当者名	清水睦美・内藤順子・松永雅文		
事案	理論学習会との タイアップ企画 (いじめ相談)	教員の大学院内地留学相 談	下福田中学校の被災地支援 相談 (陸前高田市立高田東中学校)
開催日	5/23 19:00-21:00	7/1、7/4、10/19	12/1・12/20(東中)
場所	富士見文化会館	適宜	電話相談(下福田中)
対象者	2名(のべ5名)	1名(のべ9名)	2校(のべ6名)
収入金額	0円		
支出金額	2,808円(会場費)		
成果 と課題	相談件数は3件であったものの、相談内容としては、専門性が高く要求されたり、高いコーディネート力が必要であったりする事案であり、Ed.ベンチャー内部の人的・物的資源を有効に使うことが求められた。		

外国人支援事業 ⑤生活相談

事業概要	外国人の方の生活上の相談に応じた。日本語教室が開催されている日に「出張相談」を行い、必要に応じて病院、税務署、就学時説明など関係機関に付き添った。又、必要書類の書き方、申請書の提出手伝い、就職活動の履歴書の書き方を手助けしてハローワークに付添いを行った。
担当者名	浅沼蓉子 眞田美津子 西田順子 家上幸子 延べ人数 出張相談19人、個別相談45人

開催日 (時間)	出張相談：1/12, 19, 2/9, 23, 3/2, 16, 4/20, 27, 5/18, 6/15, 7/20, 8/3, 24, 9/7, 21, 10/5, 19, 11/16, 12/21 (12:00-13:00) 全19日 個別相談：1/4, 25, 26, 2/5, 7, 10, 3/2, 5, 11, 16, 3/29, 4/27, 5/2, 12, 13, 14, 23, 6/1, 10, 6/15, 17, 21, 7/4, 5, 8, 8/1, 23, 24, 27, 29, 8/31, 9/27, 10/11, 31, 11/1, 22, 12/13 (時間は適宜) 全38日
場所	渋谷中学校開放、病院、税務署、福祉事務所、相談者宅、市分室、 ハローワーク、健康診断実施場
対象者数	出張相談：延べ19人 個別相談：延べ40人
収入金額	40,000円(県中央労福共催費)
支出金額	10,738円(旅費交通費、印刷製本費)
成果 と課題	<p>病院の付添いなどでは細やかな対応が出来たため、医師・看護師との意思疎通が相談者だけで出来る場面も多々あり、自立の見通しがついた。確定申告についても、添付書類は相談者が整える事が出来るようになったため、税務署員に提出すれば良いだけなので、次回は自分で手続きが可能と思われる。</p> <p>年初よりスタッフ不足が続き、相談打合せ日にも全員出席できる日が少なく、相談を受ける体制を維持するのも難しくなった。8月の活動報告会で現状を説明し、今年度で活動を休止する旨を報告し了解を得た。その後の継続については個人対応とした。現時点で現担当者での活動の再開はなく、今年度で生活相談部は終了とする。</p>

外国人支援事業 ⑥お父さんとお母さんのための日本語教室

事業概要	<p>日常会話が中心であるが、家族や友人との会話から仕事の上で使われる言葉、正式な場所での会話を重視した指導をした。</p> <p>また、参加者どうしの関係を深め、楽しく言葉を学ぶため、2月に豚汁作り、5月に中国の人の指導で肉まん作り、11月には1年間のまとめも兼ねて持ち寄り、パーティーを実施した。</p>
担当者名	武内敏子、福島聖子、グイ・キム・チャーイ (のべ従事者数131人)
開催日 (時間)	<p>毎週日曜日—10:00~12:00</p> <p>1/12 1/19 1/26 2/2 2/9 2/16 2/23 3/2 3/9 3/16 3/23 4/6 4/13 4/20 4/27 5/11 5/18 5/25 6/1 6/8 6/15 6/22 7/13 7/20 7/27 8/3 8/10 8/24 9/7 9/14 9/24 9/28 10/5 10/12 10/19 10/26 11/9 11/16 11/23 11/30 12/21 計41回</p> <p>土曜教室 毎週土曜日 —10:00~12:00 (基本的には毎週だが参加者の都合を考慮)</p> <p>1/11 1/25 2/1 4/12 4/19 5/10 5/17 5/24 6/21 6/28 7/5 8/23</p>

	9/13 9/20 10/11 10/18 11/8 11/15 11/22 12/6 計 20 回
場所	大和市立渋谷中学校解放「下和田の郷」
対象者数	297 人
収入金額	33,200 円（県中央労福共催費、参加費）
支出金額	40,541 円（印刷製本費、消耗品費、会場費）
成果と課題	<p>参加者どうしの関係ができ、教室が地域の人達の集まる場として位置付いてきているのは、主旨の一つでもあり一定の成果と考えられる。</p> <p>しかし様々な事情もあると思うが継続しての参加が困難で日本語を習得する点では難しいのが実情である。また、生活上の相談や話を目的にして参加してくる人も多いのも事実である。当初は子ども達の保護者の日本語力の向上を目指して開設した教室であるが、現在参加してくる人達は子どもの保護者でない人がほとんどである。教室の目的、名称、今後の継続についても考えていく必要がある。参加人数も昨年の 2/3 程度で減少傾向にある。</p>

外国人支援事業 ⑦保証人事業

事業概要	<p>外部の奨学金を受ける際に、保証人を用意できない外国人の学生に対し、「保証人グループ」を構成して、保証人を引き受ける事業である。今年度は新規対象者がいなかったため、新たに保証人となった者はいない。対象者に対しては、1・8月の報告会で、近況報告や延滞がないかの確認をした。心配される対象者については、月1回の個別面談を行った。</p>
担当者名	神戸芳子 他6名
開催日 (時間)	<p><定例></p> <p>① 報告会 1/25 (土) 16:30~19:00 基金の会報告会と合同開催 8/4 (月) 20:00~22:30 全2回</p> <p><臨時></p> <p>② 保証人グループ会議 2/20 (木) 19:00~20:00 対象者の就職活動への対応 12/10 (水) 20:00~21:00 対象者の現状確認 12/16 (火) 20:00~21:00 対象者の現状確認 全3回</p> <p>③ 個別面談 1/6, 2/6, 3/6, 4/6, 5/6, 6/6, 7/6, 9/13, 10/6, 11/6, 12/6 21:00~23:00 以上基金の会と合同対応 全11回</p>
場所	<p>① 渋谷中学校開放「下和田の郷」、富士見文化会館</p> <p>② 当法人事務所、生涯学習センター、富士見文化会館</p> <p>③ 当法人事務所、保証対象者自宅</p>
対象者数	<p>保証対象者4名（高校奨学金2名、日本学生支援機構1名、国際医療福祉大学熱海病院看護師奨学金1名）</p> <p>のべ人数 ① 4名（スタッフ数20名） ② 3名（スタッフ数13名）</p>

	③ 11名（スタッフ数 33名）
収入金額	0円
支出金額	3,408円（会場費）
成果と課題	<p>2回の報告会で対象者の現状を確認することができた点はよかった。また、心配される対象者に対しては、臨機応変に個人面談等で現状確認をしてきたが、今後も同様の対応をしていきたい。</p> <p>4月に対象者全員が社会人となったが、4名中3名が8月の報告会に出席できない状況があり、また2名は仕事や収入が不安定で、返済及び生活に不安がある。その内1名については、月1回面談を行い、返済、保証金の受け取り、通帳の確認、生活状況の聞き取りを行っているが、もう1名も様子を見て、定期的な面談が必要になってくると思われる。</p>

外国人支援事業 ⑧すたんどばいみー基金の会

事業概要	「すたんどばいみー」など、当事者団体で活動する大学生及び大学院生に対して、大学に関わる費用の貸借に関する事業を行った。
担当者名	内藤順子・清水睦美（常任委員 8名）
開催日（時間）	①2013年度 報告会 2014年1月25日（土）16:30-19:00 個別面談 ②各月6日 21:00-23:00（保証人事業と共同） ③各月25日
場所	①渋谷中学校学校開放「下和田の郷」 ②同法人事務所 ③適宜
対象者数	貸与者6名 ①のべ20名 ②（保証人事業参照）③のべ24名
収入金額	0円
支出金額	14,653円（通信運搬費、消耗品費、印刷製本費、会場費） ※すたんどばいみー基金の支援額については特別会計参照
成果と課題	例年通り、「すたんどばいみー」で活動する大学生に対して、大学に関わる費用の貸与事業を行った。2014年1月25日に、2013年の締め括りとなる「すたんどばいみー基金の会」の報告会を行った。2014年の新規貸与はなく、就職等による返金は4名で73口であった。今年度は、新規貸与者がなかったこともあり、新規積立依頼も行わなかった。現在のところ、事業内容を見直す必要はないと判断している。

外国人支援事業 ⑨子どもの居場所・学習教室

エステレージャ・ハッピー	
事業概要	就学前児童・小学生・中学生を対象とした学習支援を行った。就学前児童には、日本語をより多く獲得するための学習を遊びを通して行った。小学生、中学生には、宿題の支援や学校での授業の理解を深めるための学習補充を行った。また、子どもたちが企画運営を通して相互理解を深めることを目的として、ス

	<p>ポーツ大会、遠足、クリスマス会等のイベントも行った。イベントでは、小学生高学年と中学生が中心となり準備を進めた。定期テスト前には、中学生対象にテスト対策の学習会を1回開催した。また、必要に応じて高校生の学習支援も行った。</p>
担当者名	<p>篠原弘美、内藤順子、家上幸子、坂口晶紀、小林勇輝、馬場貴司、吉間里依、福島聖子（のべ従事者 378名）</p>
開催日 (時間)	<p>土曜日 10:00～12:00 1/4,11,18,25,2/1,8,22,3/1,8,15,22,29,4/5,12,19,26,5/10,17,24,31,6/7,14,28, 7/12,19,26,8/2,9,16,23,30,9/6,13,20,27,10/4,11,18,25,11/1,8,15,22,29,12/6, 13,20,27 11/12 中学生テスト対策学習会 (17:30～20:00)</p>
場所	<p>大和市立林間小学校開放、鶴間コミセン、勤労福祉会館</p>
収入金額	<p>241,800 円 (県中央労福共催費、参加費)</p>
支出金額	<p>154,535 円 (給与手当、旅費交通費、教材費、消耗品費、交流費、印刷製本費、会場費、保険料)</p>
成果 と課題	<p>教室に通ってきている子どもと、イベントには参加するが教室には通わなくなっている子どもが固定化されてきている。イベントには参加する子どもとは、スタッフが連絡をとり参加を促しているが、引き続き連絡を取りながら、教室へ来られるような手立てを考えていく。</p> <p>スタッフミーティングで子どもの情報を共有しながら、子ども一人ひとりに対応した長期的見通しを持った支援の方法や学習方法について考えていく。</p> <p>スポーツ大会、遠足、クリスマス会等のイベントを小学生高学年と中学生が企画して行ったが、イベントを通して、中学生が小学生をリードする姿や、小さい子への気遣いをする姿が見られ、小学生の良い見本と中学生がなる事ができる機会であった。イベントを通して、子ども同士の関係も見えてきたので、子ども同士の関係性を築いていくことを意識したイベントを考えていきたい。</p> <p>また、イベントの準備を十分にできる時間の確保もして、子どもたちがより企画運営に携わることができるようなイベントとしていきたい。</p> <p>中学生対象のテスト前学習会は、部活動に参加している子どもにとっては効果的であり、中学生には平日夕方に学習支援の場を設けることも考えていく必要を感じた。</p>

<p>Kokusai B.G.</p>	
事業概要	<p>土曜日前半の2時間は小学生・中学生を対象とした学習支援や日本語習得の支援を行っている。これにはスタッフだけでなく高校生も指導者として参加している。現在例外的に一人の大人に日本語の指導を行っている。</p> <p>後半の2時間は高校生を対象とした学習支援や進路相談、進学支援を主にやっているが、彼ら自身の出来事や悩み等を話し合う場ともなっている。</p> <p>大学進学を目指す生徒の受験勉強や、通信制高校の生徒のレポート作成のた</p>

	めに必要に応じて個別対応で土曜日以外にも時間を設けて学習支援を行った。 イベントは、5月に福井で田植え体験と年末にクリスマス会を開催した。
担当者名	家上幸子、額賀美紗子、福島聖子、保坂克洋
開催日 (時間)	金曜日 14:00～17:00 (3月まで)、土曜日 14:00～18:00 (4月から) 随時対象者の要求に応じて対応している 【教室開催日】 1/4.10.17.24.31 2/7.14.21 3/14.28 4/5.12.19.26 5/3.10.17.24 6/7.14.28. 7/5.7.12.19.26. 8/9.16.23.30 9/6.13.20.27 10/4.11.18 11/1.8.15.22.29 12/6.13.20 【個別対応日】 3/10.11.12.13.23.25.26 4/9.40.14.16.17.23.25 5/3.4.5.6.7.8.13.21.27.28.31 6/4.11.25 7/2.11.16.17.18.24.25.30 8/7.13.20.21.26 9/4.9.12.19 10/1.7.8.15.17.22.25.26.27.28 11/24
場所	あつぎ市民交流プラザ (アミューあつぎ) Edベンチャー 事務所
参加者数	対象者のべ数 185名 (スタッフのべ数 128名)
収入金額	30,000円 (県中央労福共催費)
支出金額	26,561円 (教材費、消耗品費、交流費、会場費、印刷製本費)
成果 と課題	<p>現在教室に参加している小中学生は父親が日本人であることや日常会話が日本語である程度できるということで学校ではあまり外国人として認識されていない様子なので、この教室で外国人としての支援を受けることができる。今後も継続的に教室に通って来てくれることを望んでいる。</p> <p>定時制高校生に関しては大学進学を果たすことができたので、この先も彼が教室との関わりを持ち続けてくれて、我々としても支援を続けて行きたいと考えている。</p> <p>他の高校生に関しては、学習の継続に困難さや進路の危うさがみられるので、この教室がそうことを気付く場、エンパワーメントする場として活用してほしいのだが、アルバイトや家庭の事情で土曜日に来ることが困難になっている。今後は個別対応を拡大することが彼らのニーズに応える一つの方法かもしれないと模索している。</p> <p>また、彼らの間で有機的な関係が構築されることが課題として残っている。</p>

外国人支援事業 ⑩当事者活動支援

事業概要	「すたんどばいみー」をはじめとする外国人青少年当事者による活動に対して、活動費の補助、助言、協力を行った。また、例年どおり、「すたんどばいみー」に対し、やまと市民祭りの出店協力、活動費 (印刷費) の助成を行った。
担当者名	宮脇英理・劉麗風・チューブサラーン
開催日	基本的に随時 ①やまと市民祭り 5/10 (土)～11 (日)
場所	基本的に適宜 ①引地台公園

対象者	すたんどばいみー 1 団体
収入金額	0 円
支出金額	50,940 円 (印刷製本費、広告費)
成果と課題	すたんどばいみー2014 年報告参照

学校及び外国人支援に関する普及啓発事業 (⑪)

事業概要	当法人の周知及び学校支援、外国人支援の必要性を広く市民に呼びかけるため、事務局を中心に以下の活動を行った。 ①2014 年度版パンフレットの作成と配布 ②広報紙「Ed.ベン便り」の作成と配布 ③講演録の作成と配布 ④講演会及び理論学習会の読書会資料の購入・配布 ⑤ホームページの改訂、更新
担当者名	清水睦美、武内敏子、チューブサラーン、家上幸子
開催日	①パンフレット作成・配布：3 月 ②Ed.ベン便りの配布：4、6、8、11 月 ③講演録配布：2 月 ④読書会資料の配付：10 月 ⑤HP：随時
場所	①②⑤当法人事務所 ③教育講演会会場 ④理論学習会会場
対象者	配布先： ①③④会員及び学習会・講演会参加者など希望者 ②会員、大和市立小中学校 ⑤一般公開
収入金額	21,282 円 (資料代収入)
支出金額	52,441 円 (通信運搬費、消耗品費、広告費)
成果と課題	①パンフレットは年度内に全面改定の計画であったが達成出来ず、デザインはそのまま事業計画のみ改訂し事務所で印刷を行った。 ②2014 年度から新しい試みとして広報紙「Ed.ベン便り」を作成し、市内小中学校に配布して活動から見える社会の問題提起や、当法人の活動の周知を行うことが出来た。 ③講演録作成の為にテープ起こし担当者に負担がかかっている。 ④次年度の講演会講師の著作を理論学習会で講読し勉強会を行うのにあわせ、理論学習会担当で配布を行った。 ⑤計画では年度内の改訂 HP 一般公開を予定していたが、進捗が遅れた。改訂 HP のデザインとデータ移行は (株) コエカタマリンに依頼した。

法人の事業円滑実施のための活動（⑫）

事業概要	法人の活動を円滑に遂行するため、事務局の運営、活動報告会の開催を行う。 ①事務局の活動：外部からの問合せや依頼に対する対応、各活動の掌握、活動相互の連携補助、法人の出納に関すること、資料整理、活動報告会の設定、会員管理。 ②活動報告会の開催：各活動の報告、活動間の連携に関する事項や活動推進上の諸問題解決に関する事項、総会に付議する事項を検討。 ③総会の開催
担当者	①事務局5人 ②役員26人 ③総会：正会員108人
開催日 (時間)	①事務局：平日10:00-17:00 ②活動報告会：1/20(月), 2/3(月), 4/7(月), 6/9(月), 8/4(月), 9/27(土), 10/6(月), 11/13(木), 12/18(木) 18:30-21:00 全9回 ③2月15日(土) 11:00-12:00
場所	①当法人事務所 ②富士見文化会館 ③渋谷学習センター
収入金額	0円
支出金額	746,133円(給与手当、福利厚生、旅費交通費、通信運搬費、消耗品費、印刷製本費、ガス水道光熱費、事務所賃借料、会場費、租税公課、雑費)
成果と課題	①事務局は、前事務局長の体調不良のため、10月より事務局長が交代し、事務局員を1名増員して新体制を組むとともに、2週間に一度事務局会議を行って円滑な事務局運営を図った。 ②活動報告会は、9月に理事1名が一身上の都合により辞任したが、臨時活動報告会にて引き継ぎを円滑に行うことが出来た。 ③総会は悪天候のため参加者が少なかったが、定足数に達し無事に終えることが出来た。

3. 特別会計事業

⑬東日本大震災支援事業

事業概要	陸前高田への支援に関しては、地元立ち上げた教育支援団体「まつ」への支援を継続した。 石巻への子ども支援に関しては、大学生を中心とした支援組織「ライオン学校」を資金面や人的参加によって支援を行った。
担当者名	清水睦美・家上幸子
開催日 (時間)	①「まつ」総会参加 5月30日2名 ② 理事会参加 8回 延べ12名 ③「ライオン学校」参加支援活動(別紙資料参照)

場所	①②陸前高田市 ③石巻市
対象者	①② 教育支援チーム「まつ」 ③ライオン学校の子どもたち
収入金額	635,292 円（寄付、助成金等）
支出金額	542,434 円（陸前高田仮設維持費、ライオン学校支援費）
成果と課題	<p>岩手県陸前高田市への学校支援に関しては、地元教育支援グループである「まつ」の支援に当たった。総会や理事会への支援を中心とし、直接的に共同する活動はなかった。「まつ」は、残留支援物資の配布や各学校の情報収集などを行なった。『スクールバス導入』にも取り組んできたが、現在は具体的な進展を見ていない。また、フリースペース「まつぼっくり」も立ち上げ、不登校の子どもたちの支援も模索した。</p> <p>宮城県石巻市万石浦地区の子ども支援に関しては、大学生を中心とした「ライオン学校」の活動を資金面で支援した。様々な課題を抱えつつも、多くの子どもたちが、学校や家庭で落ち着いた生活や人間関係を手にしたようである。こうした状況をふまえ、「ライオン学校の活動終了」を視野に入れながらの活動であった。学校解散にむけて11月に開催したイベントには、多くの子どもたちが参加し、成長した姿を見せてくれた。こうした取り組みの中でも、支援学級に通う中3の女の子に対する支援は、ライオン学校全体の活動とは切り離し、中学校と連携する中で進めてきた。詳細は「ライオン学校報告」にて。</p>

すたんどばいみー基金（⑧）

事業概要	⑧参照
担当者名	⑧参照
対象者	貸与者 6 名
貸与額	5,630,000 円